

事業名 福島社会イノベーション創造事業

採択大学等名 早稲田大学

連携市町村名
広野町、富岡町

取組概要

本事業は、東日本大震災と福島第一原発事故からの創造的復興を目指し、「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ(SI構想)」を掲げ、活動を展開してきた。その核心は、技術開発だけでなく、新たな社会制度や組織を創造する「社会イノベーション」を通じて、「復興と廃炉を両立」する、持続可能な地域社会を構築することである。

この目的を達成するため、本事業では専門家主導の一方的な情報提供ではなく、多様な人々が対等な立場で対話し、共に知識を創造する「対話の場」＝「学びの場(Learning Community)」の形成を重視してきた。目指す人材像は、専門知と地域知を媒介し、社会の分断を乗り越えてイノベーションを創出できる「境界知作業員(Boundary Knowledge Worker)」の育成である。

教育研究プログラムの概要



これまでの成果

5年間の活動で、多様な主体が連携するプラットフォームを構築した。

1. 持続的な「対話の場」の形成と社会への発信

➢ 専門家、行政、住民、学生など多世代・多分野の参加者による「対話の場」を数多く創出してきた。「1F廃炉の先研究会」(35回)や「創造的復興研究会」(18回)を、高校生が中心の「1F地域塾」(12回)や住民主体の「福島再生塾」(5回)で実施し、研究会での専門的議論を社会に還元。これらを自由に議論する「ふくしま学(楽)会」は16回を数え、社会的な合意形成プロセスを実践してきた。取組はNHKや朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞などの全国紙で報道され、社会的な関心を喚起している。

2. 連携体制の拡大と深化

➢ 連携体制も、当初の広野町に加え、2024年には富岡町や株式会社ふたばとも協定を締結し、浜通りを横断する広域ネットワークへと発展した。また、ふたば未来学園との連携を深め、大学研究者が高校生の探究学習を直接支援する高大連携モデルを確立した。

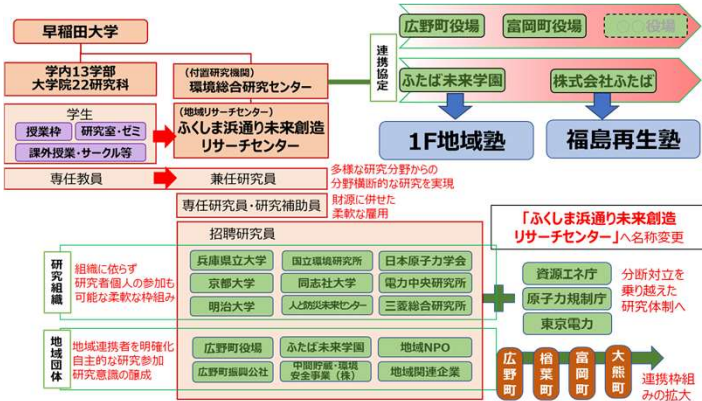
3. 次世代を担う人材の育成

➢ 学生を対象とした「福島浜通り復興ワークショップ」を継続的に実施。原発視察、帰還困難区域での活動、地域住民との対話を通じて、学生が福島の問題を「自分ごと」として捉え、自らの言葉で教訓を紡ぎ出すプロセスを支援している。

今後の展開

「対話の場」と「人材育成のプラットフォーム」は、補助事業終了後も持続可能な形で発展させていく。研究会やワークショップは、大学の研究費や連携先との協働により継続。「1F地域塾」はふたば未来学園の探究活動と、「福島再生塾」は株式会社ふたばとの連携のもと、それぞれ地域に根差した活動として自走化する。

実施体制・連携体制の構築



本年度のピック「津島地区の住民参加型アセスメント」



「対話の場」+「学びの場」モデルの形成



持続的な枠組みづくり

